

会報

No. 84

平成23(2011)年8月15日

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町9
京都府立図書館内
TEL (075) 762-4655

京都府立総合資料館は京都に関する 情報発信の拠点として再出発をします

〈新資料館の建設に向けて〉

京都府立総合資料館長 伊藤 秀一

京都府立総合資料館は、京都に関する文化、産業、生活等の諸資料を収集、整理、保存して、閲覧または展示することにより、府民の調査、研究等一般に供することを目的として、昭和三十八年十一月に開館されました。

総合資料館は、当時、大英博物館を模範として、京都のあらゆる文化的資料（古文書、公文書、図書、絵画等々）を集める図書館、博物館、公文書館の範疇にとらわれることのない、まさに「総合資料館」として都道府県立としては例を見ない規模で発足したものです。

資料館のある北山地区は、京都市が郊外に伸張していく中で、新しい若者の街として発展して来ました。北山通りに面して多くのおしゃれな店が開店し、京都市営の地下鉄烏丸



線の北山駅も新設されるなど周りの環境は大きく変化してきました。また、公共施設も、戦前からの府立植物園や府立大学に加え、陶板名画の庭や京都コンサートホールなどの施設が充実されたことにより、文化的香りの漂う新しい京都として、そのイメージはより一層洗練された素晴らしい立地環境となっています。

この間、資料館そのものも、京都府が英断を持って購入した「東寺百合文書」が、平成九年に国宝指定されるという快挙を成し遂げることができました。さらに、平成十四年に明治から戦前の「京都府行政文書」

が、更には平成十五年に「革鳴家文書」が国の重要文化財に指定されるなど、府県立の施設としては考えられないぐらいの貴重資料を有するに至っています。その後、昭和六十三年に数多くの日本画やその他の文化資料を（財）京都文化財団に管理委託し、また、平成十二年には京都府立図書館に一般図書の多くを移管するなどして現在に至っています。

まもなく五十年を迎えようとして

いる今日、老朽化した現在の建物を立て直すという思い切った判断がされました。それを受け、平成十九年以降、総合資料館の機能や取り巻く環境の変化等を踏まえ、より一層府民の皆様のご期待に応えうる施設となるよう、館の果たすべき役割、機能のあり方を見据えた検討を進めて来ました。そこでは、「京都に関する資料の収集・保存と積極的活用」、「公文書館機能の充実」、「研究・学習・教育支援とネットワーク機能の強化」及び「北山地域の中の総合資料館」を重点事項として考えているところです。そして、何より特筆すべきことは、府立大学との連携の下で、資料館に「国際京都学センター」を設立し、資料館の貴重資料を活用した京都研究のメッカとも言えるべき機能を持たせ、その成果を全世界に発信しようとしていることです。

新資料館の整備に当たっては、機能面の充実はもちろんのこと、北山文化環境ゾーンの魅力をより高める観点から、周辺の美しい風景に自然に溶け込むような美的観点も重視して進めていくつもりです。場所は、京都市コンサートホールの南側を予定しています。利用者の皆様には、新資料館を今まで以上にご利用いただきますよう、心からお願ひ申し上げます。

平成二十三年年度 京都府図書館等連絡協議会定期総会開催

平成二十三年年度京図連協定期総会が、平成二十三年四月二十二日（金）午後一時三十分から、京都府立図書館において開催されました。

開会行事には仁科会長のあいさつ、来賓の石川国立国会図書館関西館次長、丸川京都府教育庁指導部社会教育課長から祝辞、勝間京都府立図書館長から歓迎の挨拶をいただきました。

その後、平成二十二年・二十三年年度の理事が紹介され、続いて事務局の紹介があり、議事に入りました。

総会の後には、永年、図書館活動の振興に寄与されたボランティア団体等の功労者（団体）の表彰式を行いました。

また、講演会は「これからの図書館く千代田図書館の新しい取り組み」と題して千代田区立千代田図書館長新谷迪子氏の講演をいただきました。

◆総会議事

総会は、大槻京田辺市立中央図書館長を議長に選出し、加盟館四十九館中、出席二十四館、委任状二十一

館により総会が成立していることを確認し、議事が開始されました。

事務局から平成二十二年年度会務報告及び平成二十二年年度決算報告、監事の寺本京都市南図書館長から監査報告がなされ、会務報告・決算報告ともに承認されました。

続いて、監事に寺本京都市南図書館長、大西南丹市立中央図書館長、顧問に中西京都市中央図書館長、伊藤京都府立総合資料館長、勝間京都府立図書館長とすることが承認され、総会は終了しました。

◆会務報告・決算報告

会務報告では、K・L・I・b・n・e・tの横断検索館・データ提供館の増加、集中型から横断検索館への移行、B参加館から横断検索館への移行について、また相互貸借等の増加、平成二十三年年度連絡協力車について、巡回コースと今年度から二か月に一回職員同乗することが報告されました。

次に、平成二十二年年度に実施した京図連協の総会・理事会、各専門委員会の活動状況や京都図書館大

会、子ども読書絵がみコンテストの取組や「図書館総合展フォーラム2011 in 京都」に係る後援名義の使用について報告されました。

決算報告では、各種事業に要した経費の支出等について報告されました。

◆事業計画・予算案

事業計画では当初事業案や旅費申し合わせ案の説明をしました。また、子どもをはじめ府民の読書活動を推進する事業の実施を図る企画などが提案されました。功労者（団体）表彰の実施の報告もされました。

◆功労者（団体）表彰

府内の図書館等で読み聞かせ等図書館活動や読書活動の振興に寄与された団体・個人を表彰し、永年の活動を称えました。

★表彰者（団体）一覧

京都語り部の会 大西まさ子 様
おはなしたまてばこ 近美由利恵 様

まぶち子ども文庫 西村 康子 様

おはなしグループ「おもちゃばこ」 津田ひとみ 様

財団法人京都高等学校 西 師敬 様

おはなしキャラバン「たんぼぼ」 根津美智子 様

読み聞かせボランティア「あいいうえお」 柴田 望 様

遠藤 昭子 様 (京都市醍醐中央図書館)

井山 暁子 様 (京都市醍醐中央図書館)

伊勢のり子 様 (京都市右京中央図書館)

辻井 厚子 様 (京都市向島図書館)

河口 高志 様 (京都市中央図書館)



定期総会講演会

「これからの図書館」

「千代田図書館の新しい取り組み」

千代田区立千代田図書館長 新谷 迪子

千代田図書館の二つの特性

大規模なビジネス街・官庁街が存在し、千代田区内に勤務する昼間区民が多く、平日の利用が多い。

一般的公立図書館の資料に比べ、近年発行された資料は少ないが、特殊で貴重な資料が存在する。

この特性を踏まえて五つの機能コンセプトを作り、実際の図書館運営の礎としている。

一、千代田ゲートウェイ

図書館コンシェルジュを置き、図書館案内に加え近隣の飲食店なども紹介する、千代田区の総合案内をしている。街を元気にすることが千代田図書館の役割と考えるからである。コンシェルジュには、司書の資格は問うていない。

神保町は出版関連産業の街なので、出版社と連携した企画展示を行っている。「としょかんのこしよてん」は、古書店の月替わり展示である。図書館で古書を紹介し、身近に感じてもらっている。もし買いたいという利用者がいれば、展示終了後、個人で

古書店に連絡してもらっている。

二、創造と語らいのセカンドオフィス

ビジネスパーソンの利便性に配慮し夜十時まで開館しており、閉館まで座席は満席である。来館者の快適な「セカンドオフィス」となるべく、館内に有線・無線LANを設置し、パソコンの持込みを可とし、ケータイゾーンも設けている。飲物も公認し、長時間滞在型の図書館である。

企画展示の狙いはビジネスの発想を刺激しようとするところである。利用者のいるスペースで講演会なども行う。

このような方針のため、利用者アンケート結果では、千代田図書館の気に入っている点は、居心地の良い場所だという回答を多く得ている。

セルフフレファレンスサポートも重要な方針である。ビジネス図書・雑誌は全て禁帯出なので、利用したい人がいつ来ても情報収集ができる。

オンラインデータベースを徹底活用してもらえよう、小人数の情報検索講習会を繰り返し行っている。リ

ニューアルオープン当初はオンラインデータベースのコピーは不可としていたが、できるようにし、指定管理者の収入源としている。現在九種のデータベースを収集しているが毎年見直し、バージョンアップしたら年度途中でも検討することになっている。

三、区民の書斎

一般的公共図書館の機能を確保し、貸出サービスや閲覧の空間を工夫している。大きな窓から見える景色や夜景の美しさを感じながら図書館の利用ができる。従来公共図書館は持込み学習を排除してきたが、千代田図書館ではそれはしていない。

四、歴史探究のジャングル

貴重なコレクションが三種閉架書庫にある。この価値を学識経験者等に力を貸して貰い、整理し展示や出版物、セミナー、講演会で紹介していくことで、千代田図書館の貴重な蔵書を公開し、図書館側はそれを魅力として積極的に出している。図書館の閉架書庫の中は、利用者にとって『何が出てくるかわからない』ミステリアスなジャングルでもあった。

内田嘉吉文庫は、後藤新平氏が活躍した時代の通信官僚であった内田氏の蔵書一万六千冊が寄贈されできたものである。外国語図書が多く、西洋の旅行記や当時の政府刊行物、政治家の伝記が多いのが特徴である。

古書販売目録コレクションは、約一万点の古書販売目録が蓄積されている。長期保存されない古書販売目録であるが、その時点での古書の概要や値段の変遷が窺え、かつ地域特性も反映した、全国でも珍しいコレクションである。

内務省委託本は、検閲官の検閲痕跡が残っていて、今までなかなか実態が判らなかつた、戦前の検閲や書籍の出版事情の研究等に、全国でも類書の少ないコレクションである。

五、キッズセミナーフィールド

育児中の大人も図書館利用やイベント・行事に参加できるよう、図書館内で託児サービスを行うなど、通常の子ども向けサービスに加え、付加価値を高めている。

また、図書館から離れやすい年齢層である、小学校高学年から中学生を対象にしたセミナーやイベントの開催をこの場所で行っている。

このようなコンセプトに基づいた図書館の活動は、指定管理者の自己評価として、年三回利用者アンケートを実施し、サービスの適性をみている。千代田区所管課による毎月の評価、外部評価として千代田区図書館評議会による評価もある。

毎年これらの評価内容を受け止め、事業実施計画に反映させている。

「子ども司書」の

取組について

宇治田原町立図書館

奥山 一紀

「子ども司書」育成事業は昨年十一月より町内の小学校（田原小・宇治田原小）を対象に教育委員会が始めました。対象者は、委員会活動で図書委員に選ばれた五・六年生の児童です。目的は、本の面白さや素晴らしさを友達に広めるリーダーとなってもらうことです。

取組内容としては、図書委員の児童は三回の子ども司書プログラムに参加します。時間や場所はそ



れぞれの学校の委員会活動日（原則月一回、六限目）に図書室で行います。学校にお願いして四十五分のうち約半分程度の時間をいただき、講師は学校図書司書が行います。三回のプログラム終了後、希望者には町立図書館での体験活動に参加できるという流れです。本年は、両校で二十八名の児童がこの事業に参加しています。

昨年度は、分類と目録をできるだけ簡単にわかりやすく児童に教えました。レジュメを使い、一方通行ではなく、理解の定着度を図る実践として子どもたちにあらかじめ本を手渡し、実際に書架に返却してもらいます。目録作成については、あまり専門的にならないよう注意し、本の奥付から書名や著者名、出版社等々いくつかの基本情報が抜き出せるよう教えました。子どもたちもみんなまじめに取り組んでくれて、本に親近感をもってくれるようになった様子がわかりました。

この事業は学校教育が主体で行っていますが、図書館としてはプログラム開発の手助けをしたり、学校図書司書が教えられるように指導助言を行うことで協力しております。また、昨年は図書館での体験活動に両小学校の児童五名が参加してくれました。半日でしたが、みんなまじ

めに最後までがんばってくれました。

子どもたちの反応も上々で、本には分類番号があるのがわかって、本を探したり返却する場所がよくわかった、という声をいただいております。

今後は更なるプログラムの開発とともに、一人でも多くの子どもたちが本好きになることを願って、事業を続けていきたいと思っております。



京図連協から福島へ寄贈

東日本大震災で被害を受けた福島県の図書館を支援するため、京図連協から九七一二冊（一般書六四六二冊、児童書三二五〇冊）を五月二十三日（月）に福島県立図書館にお届けしました。

加盟館の皆様には多数の図書をご提供いただき、ご協力ありがとうございます。

なお、この寄贈の件について五月二十一日（土）に京都新聞、読売新聞、六月一日（水）に毎日新聞に掲載されました。

本の到着時の風景 (福島県立図書館から提供)



新任図書館(施設)長紹介

京都市伏見中央図書館 芝田 一広
京都市醍醐中央図書館 芝田 一広
京都市南図書館 寺本 義明
京都市吉祥院図書館 岡田 真也
京都市久世ふれあいセンター図書館 東條 朝一
京都市久我のもり図書館 小川 静夫

長岡京市立図書館 橋本 政道
大山崎町立中央公民館図書室 堀井 正光

宇治市中央図書館 北岡 和昌
木津川市立中央図書館 原田 茂弘

和東町体験交流センター図書室 植田 貴代

京丹波町中央公民館図書室 山内 善博

宮津市立図書館 久保 誠一

京都府立総合資料館 伊藤 秀一

平成二十二年研修計画

★第九十七回全国図書館大会多摩大会

期日 平成二十三年十月十三日(木)

平成二十三年十月十四日(金)

開催地 東京都調布市

テーマ『広げよう、図書館のある暮

らし—つなげよう知の拠点・続けよう Help-Toshokan—』

★全国公共図書館研究集会

〔日図協公共図書館部会〕

くサービス部門 総合・経営部門く

期日 平成二十四年一月二十六日(木)

平成二十四年一月二十七日(金)

開催地 福岡県福岡市

テーマ『今、図書館にできることく

住民に必要とされる図書館になるためにく』

★第二十回京都図書館大会

テーマ『人と図書館の新しい関係』

期日 平成二十三年九月二日(金)

会場 同志社大学

寒梅館ハーディーホール

●基調講演

国立国会図書館

柳 与志夫 氏

『新しい公共空間の形成く図書館の可能性を探るく』

●事例発表①

京都大学附属図書館

西川真樹子 氏

『国民読書年特別企画の報告く知的書

評合戦ビブリオバトルを中心にく』

●事例発表②

豊中市立岡町図書館

西口 光夫 氏

『北摂アーカイブスの構築く市民と

創るアーカイブスく』

●事例発表③

城陽市立城陽中学校

倉本千鶴子 氏

『校内研修会の取り組みく図書館の

役割を伝えるく』

●質疑応答

平成二十三年

京図連協役員体制

会長

仁科 晴夫(八幡市立八幡市民図書館)

副会長

富永 正(舞鶴市立東図書館)

理事

芝田 一広(京都市醍醐中央図書館)

西村 隆(京都市立図書館)

卯滝 清春(精華町立図書館)

梅原 武(京都市北図書館)

橋本 政道(長岡京市立図書館)

森口 光治(城陽市立図書館)

人見 修好(亀岡市立図書館中央館)

塩見 裕(与謝野町立図書館)

松岡 豊美

(京丹後市立あみの図書館)

監事

寺本 義明(京都市南図書館)

大西 敏之(南丹市立中央図書館)

顧問

中西 進(京都市中央図書館)

伊藤 秀一(京都府立総合資料館)

勝間喜一郎(京都府立図書館)

事務局(京都府立図書館)

加川 智子(事務局長)

中松 幸博(事務局員)

堀 奈津子(事務局員)

辰巳 裕佳(事務局員)

平成二十三年

専門委員会委員一覧

◎研修研究委員会

委員長

芝田 一広(京都市醍醐中央図書館)

委員

芦田 穂子(向日市立図書館)

岡井 一代(城陽市立図書館)

森島 祥子(京田辺市立中央図書館)

鈴木 浩史(井手町図書館)

河西 聖子(精華町立図書館)

久保 里美(南丹市立中央図書館)

生駒 彩子(綾部市図書館)

瀬戸真由美(与謝野町立図書館)

藤原恵美子(京丹後市立峰山図書館)

筒井 浩美(京都市醍醐中央図書館)

林下あき(京都ライトハウス

情報ステーション)

伊東 泰子(京都府立総合資料館)

柴田 容子(京都府立図書館)

◎相互協力委員会

委員長

西村 隆（京都府立図書館）

委員

中澤 智美（長岡京市立図書館）

村重あゆみ（宇治市中央図書館）

平田 浩三（八幡市立八幡市民図書館）

中川 環（木津川市立中央図書館）

栗林さよ子（亀岡市立図書館中央館）

四方 希友（福知山市立図書館中央館）

岡山 理恵（舞鶴市立東図書館）

吉田麻由美（宮津市立図書館）

山口 由美（京都市中央図書館）

大瀧 徹也（京都府立総合資料館）

足立 良子（京都府立図書館）

◎広報委員会

委員長

卯滝 清春（精華町立図書館）

委員

新築 猛（久御山町立図書館）

奥山 一紀（宇治田原町立図書館）

山本 明宣（舞鶴市立西図書館）

原田 幹子（京都市右京中央図書館）

楠 久美（京都府立総合資料館）

堀 奈津子（京都府立図書館）

専門委員会ニュース

◎研修研究委員会

平成二十三年七月十三日（水）に京都府立図書館で、平成二十三年年度第一回研修研究委員会を開催し、今年度の事業計画について、次のとおり立案しました。

北部会場

平成二十三年十二月

場所 峰山地域公民館（京丹後市）

内容 赤ちゃん絵本とわらべうた（仮）

中部会場

平成二十三年十一月後半

場所 京都府立図書館

内容 パスファインダー講習会

入門編（仮）

南部会場

平成二十四年二月

場所 城陽市

内容 本と出会える図書館づくり（仮）

詳細については、今後検討し、ご案内させていただきます。

◎相互協力委員会

平成二十三年年度相互協力委員会が、平成二十三年六月二十三日（木）京都府立図書館において開催されました。

主な内容は次のとおりです。

京都府図書館総合目録ネットワークについては、横断検索等への移行状況が報告されました。

相互協力委員会事業では、本年度の相互協力担当者、貸出制限資料一覧の確認、相互貸借関係統計、連絡協力車巡回コース等の報告がありました。相互貸借冊数は、市町村相互、府立図書館からの搬送数ともに年々増加しています。本年度は、Klibnetのサイトに、「協力ハンドブック」のページが新設され、連絡協力車の職員乗務が二カ月に一回程度となりました。また、実務担当者会議の内容についても意見交換を行いました。

そのほかに、学校支援セット貸出や貸出文庫の利用状況などについての情報交換、日々の図書館業務等についての交流協議が行われました。

◎広報委員会

平成二十三年度第一回広報委員会を五月十八日（水）京都府立図書館で開催し、今年度の発行計画と会報第八十四号の編集等を協議しました。

・第八十四号 八月十五日
・第八十五号 十一月十五日（予定）
・第八十六号 三月十五日（予定）と決定しました。

編集子

六月の参議院決算委員会では、片山総務大臣は、正規雇用の司書、学校司書の重要性について答弁した。

「公立や学校図書館には正規雇用の司書の配置が必要である。住民ニーズが広がり、地方分権による業務増を、臨時や非常勤で対応しているのが実態であり、また、業務が高度化し専門性、経験が必要になってきているので、実情に応じて正規化を試みることも必要だ。」という趣旨である。（参考 JLA メールマガジン第五五七号）これを受けて、図書館職員の正規化が進むのを願っている。

